



白いこころ

「闇夜を照らす光」

「もう二度と野球はできません」

そう宣告されたあの日。

中学生だった僕は、

もはや生きる活力を失っていた。

見かねた家族が見つつけてくれたあるクリニック。

そこで一人の理学療法士さんに出会った。

「もう一度野球やりたい？ 肘のストレッチ、やってみる？」

どん底に落ち込んだ僕が前を向けたのは、

強制的な治療でも機械的なりハビリでもなく、

「優しい心遣いと言葉」があったから。

その人のような光になりたくて、僕も同じ理学療法士の道を志した。

僕の今のモットーは「患者さんと二人三脚」。

リハビリでは「患者さんのきもち」がとても大切だから、

「どうしたらモチベーションが上がるのか」をあらゆる角度から考える。

今は勉強の日々だけれども、痛みを経験したからこそ、

患者さんの心に寄り添える部分があるのかもしれない。

「今、僕は誰かの光になれているだろうか」

今日も自分に問いかける。